

古田 弘子（熊本大学）

採択された科研費テーマ「スリランカにおける障害児の教育的包摂

～社会的文脈に即した包摂モデルの構築に向けて～

採択期間 2021年10月～2026年3月

渡航先（国・機関）スリランカ ペラデニヤ大学・国立教育研究所

<報告要旨>

本研究の問題意識は、近年国際スタンダードとなっているインクルーシブ教育を低・中所得国に一律に適用することが果たして適切なのかというところにある。そこで、発表者が過去30年間数人の共同研究者とともに研究を蓄積してきた中所得国スリランカにおいて、その固有の社会的文脈に即した障害児の教育的包摂のモデルを構築することを着想した。その際、教育学のみならず、福祉学、人類学の研究者の共働による学際的研究を行うこと、さらに日本（研究者4人）とスリランカ（5人）という2国間にとどまらず、イギリス、インドの研究者1人ずつ擁することで多角的な検討を行う国際学術研究の一拠点を形成することとした。2022年度はメンバー間でオンライン会議を繰り返し、共同研究の基盤を形成することに傾注した。2023年度は発表者をチーム外にも広げ、オンラインシンポジウムを数回実施する。2024年度以降は研究成果の公開（国際学会発表、英文誌投稿、英文書籍発行）を行う。2国間のみならず4か国の研究者で、共感しあいながら率直な意見交換ができるところに本研究の醍醐味がある。一方、スリランカの経済危機による停電の頻発、また研究謝金を国外の研究者に提供できない科研のルールが低中所得国の研究者との共同研究においてハードルとなっている。長期間特定の国をフィールドとし関係構築をすることで、さまざまな研究の展開が可能だと考える。